

第二部

第6回大学教育セミナー

「FD・ICT教育推進室が進めている学士課程教育改革に伴う

FD推進と教育実施・支援モデルの構築（最終報告）」

ポスターセッション

2009年2月14日

ホテル金沢 ダイヤモンドルーム

教材作成部門活動報告

教材作成部門の目的

「ICTを活用した教材作成」の支援をすることで
授業改善の手助けをすること

主な活動

1. モデル教材の作成の作成
2. 重点作成資金による教材作成の資金的支援
3. 学生クルーによる技術的な教材作成支援
4. FD/SD 部門と連携しての学生クルーの技術的向上

教材作成部門の人員

- 教員 1 名
- 教務補佐員 2 名
- 多数の学生クルー

※教務補佐員および学生クルーの働きが
非常に大きい。

モデル教材

これまでに作成した教材数 11 コース

今年の作成数 2 コース

- 一歩進んだ PC 活用講座
- 初めての物理学

重点作成教材

これまでに 21 コース作成

今年の取り組み 8 件

| 取組代表者 | 教材名 |
|-------|---------------------------|
| 国本浩喜 | 「化学の演習問題(継続)」 |
| 須田光宏 | スクリーンキャストを用いた情報処理基礎教材 |
| 鈴木永雄 | 薬学類6年制事前実習マルチメディア教材作成 |
| 鈴木健之 | e Learning教材「初めての生化学」の作成 |
| 林 宜仁 | e Learning教材「リメディアル化学」の作成 |
| 鏡味治也 | 学域共通科目「現代日本の文化と社会」の教材作成 |
| 佐々木敏彦 | 初心者用のネットワーク環境構築支援教材の開発 |
| 池下研一郎 | 1年生用「経済数学」教材の作成 |

今後の目標

学内の教職員の要望を聞いて、全学的な教材作成の支援を行い、FD 活動に寄与する。

授業方法のレベルアップを支援する

末本 哲雄

金沢大学 FD・ICT教育推進室 FD/SD・ICT教育支援部門
suwe@el.kanazawa-u.ac.jp

1. はじめに

2007年からの大学院教育、2008年からの学士課程教育のFD義務化が始まり、各大学で授業方法・内容の改善に関する様々な取り組みが行われている。金沢大学ではICTを活用したFDに力を入れており、アカンサスポータル運用や無線LANアクセスポイントの増設や新入生の必携PC化などを実施してきた。

しかし、環境整備が進んでも、教員の活用が促進されなければ実質的効果は薄い。このため、発表者は2008年5月の着任以来、教員のICT活用の促進と草の根的FDに携わってきた。本報告では、その活動内容について以下に紹介する。

2. 活動紹介

① 普及



< ポスター配布 >

学内におけるアカンサスポータルの認知を高めるため、ポスターを作成し、全教員に配布した。(約1000枚)

< 利用IDとパスワード >

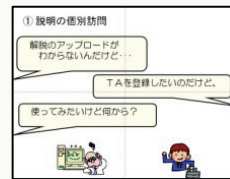
初めての利用する教員にはIDとパスワードを直接手渡し、希望があれば一緒に操作している。



< 利用者講習会 >

各部局と共催し、アカンサスポータルの利用講習会を行っている。(全体説明+実習+相談)

② 活用



< 個別相談 >

マウス操作やコンテンツの作成法など、利用相談を個別に受付けている。

< 授業方法の提案 >

「WebClassを活用した大人数講義での出席確認」など、授業方法の効率化、高効果化を支援している。



③ 教材作成



< e-Learning教材 >

講義ノートのデジタル化やビデオ撮影、音声収録等により、e-Learning教材を作成している。

< プレゼン指導 >

教員の要望に応じて、学生にプレゼン技術の指導を行っている。(一歩進んだPC活用講座 他)



3. おわりに

ICT活用やFDに関する要望・相談などがございましたら、お気軽にご連絡下さい。

e-support@el.kanazawa-u.ac.jp
076-264-5804 (内線5804)

アカンサポータルシステムを利用した 学生の学習活動支援の実験的取り組み

FD/SD・ICT教育支援部門 鎌田康裕・末本哲雄

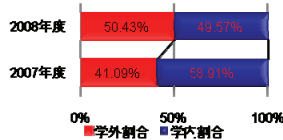
1 アカンサポータルへのアクセス状況

(2006年度4月～2008年度 2009年2月2日迄)

2006年度の施行からの4月～10月のアクセス数の変化です。
2006年度は、共通教育(教養)科目の一部のみで利用されました。
2007年度は授業履修および1年生の為のポータル利用ガイダンスの授業の影響で、4月5月の利用は多く、同じく7月は期末試験などでの課題確認や連絡のため利用されています。
しかしそれのない時期の利用が極端に少なくなっています。

2008年度は昨年度大きくアクセスが減少した月も、今年度は一定の水準を保ち、2倍以上のアクセスを記録しています。
e-learning教材の増加、連絡手段としての普及、アンケート、出席にも利用され、また2・3年生もPCを所有していることから専門科目での利用も増加したため、前年度より利用数が増加しています。
この結果を受けて、増加傾向をさらに詳しく分析しました。

場所別ポータルアクセス割合

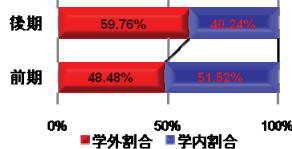


上の左図は2007年度と2008年度前期の学内・学外のアクセス数の比較です。約10%ほど学内から学外へと比重が移っています。前期は授業でポータルの利用方法を学ぶ授業があることを考えると、学外比率がさらに高まっていることが見受けられます。

上の右図は今年度(2008年度)の前期と後期で学内・学外のアクセス数の比較をしたグラフです。前期はほぼ半々であったのが、後期は学内よりも学外からのアクセスの比重が高まっています。

授業でのアクセスは減ったものの、課題提出や連絡の確認など、学外からもアクセスする頻度が高まっています。

2008年度前後期場所別比較



次に年度毎の時間別アクセス割合です。

2006年度・2007年度はポータル利用のガイダンスや履修登録など学内で使用する割合が大きかったため、日中の割合が高くなっています。

対して2008年度は日中の割合が低下し、午後9時以降深夜2時までの割合が大きくなり、この時間帯に50%の利用となっています。アルバイトやサークル、食事などが終わった後に自宅で利用する頻度が高まっています。

2008年度の時間別の利用数のグラフです。

昼間よりも夜間のアクセスが圧倒的に多く、授業時間の合間など昼間に利用するよりも、自宅などで夜間利用していることが判ります。

大学の立地や、PC必修化、近年のアパートでのインターネット環境の向上なども相まって、利用場所が変化してきています。

時間帯だけでなく、開講される授業に影響されていないか見るために曜日別の比較もしました。
すると金・土曜日は利用数が増えています、日曜日が多くなっています。

曜日毎の違いのうち、金曜から日曜までの利用数に平日と違う傾向がありました。

他の日に比べ夜にあまり利用数が増えず、そのまま授業がないためか土曜日も利用されません。しかし日曜の午後8時以降のアクセスが急激に増えています。

よって
夜間自宅での利用
次の日の授業の確認
という利用傾向が考えられます。

正課外の利用が増えていることから、この時間をどう活用し、どう活用させるかの対策をとれば、学生の学習機会もまた増加することになります。

学習機会を増やすための対策としては

ポータル上で利用できる教材、コンテンツをさらに増やしていくことがあげられますが、これは教材作成部門の活動および、我々の部門のFD活動の一環として、先生方に地道な利用普及活動および講義資料の掲載や小テスト・確認テストの作成を依頼していくことが必要となります。

もう一つ、学生同士の学びあいなど、授業に直結しない、例えばゼミ・研究室での活動、サークルなどの利用方法を考え提案・普及することで、利用を促し、授業外でのFD/SDもしくは学習支援を活性化することが可能であるが見えてきます。

ポスターセッション会場

